

市民・街・文化をネットワークする

「はーもにい」 (西東京市文化芸術振興会)



丸山市長にインタビュー 「文化を語る」

9月6日(金)田無分庁舎で丸山市長にインタビューをしました。丸山市長のイメージは、広報誌、あるいは、西東京市のホームページなどからも知ることが出来ますが、今回は丸山市長の文化に対する考え方をプライベートな面にも触れながら取材しました。

市長(以下、丸)：初めての方は、いらっしゃいますか。

振興会(以下、会)：それでは自己紹介から。振興会副会長の、赤沢です。副会長の西田です。西東京フィルの代表です。井口です。運営委員長で、アマデウス合唱団に所属しています。小田です。編集長です。個人的には、こもれびホールでジャズを企画しております。前田憲男さん達を企画しました。

丸：そうですね。僕もね、ニューヨークのビレッジバンガードへ行った時、マッコイ・タイナーが出ており、話をしたかな。ノーザンシックスは、佐藤允彦さんだったかな。

会：市長はお聞きするところによると、音楽の分野は広いとか。

丸：僕はこんな体型だから、ラグビーをしておりました。インターナショナルな大会では、チームドクターとして第2回のワールドカップに参加しました。ドーピング問題がありチームドクターを帯同しなければいけなくなり、第2回以降はそのようなレギュレーションになり、僕に白羽の矢が当たったのです。本来なら、整形外科なんでしょうが。

会：本来ならば、スポーツについてお聞きするのですが、今日は市長の趣味、あるいはプライベートなこともお尋ねさせていただきたいと思います。文化芸術ではどのような分野に興味を持たれていますか。

丸：僕の場合は祖父が教育者で、父が開業医で音楽的な環境には育っていませんでした。子供の頃は最初に、ウクレレ、ギターをやり、小学校の頃にはバイオリンのレッスンをし、中学頃から軽音楽、ジャズに関心を持ち、コルトレーンとかに夢中になり、高校の時にライブハウスのピットインなどに聴きに行きました。あの頃はテナーサックスに親しみ、ボサノバを好きになりました。大学に入ってから、専ら聴く側になって演奏はしなくなり、ラグビーにのめり込んでいました。卒業してからは、赤ん坊の心臓外科医を23年間やり、その後、東京都の医療行政を17年間やりました。地元に戻って、今に至っています。又、子どもと接することが多かったので手品をしたり、音楽はたまに病院の中でやったりしていました。現在は東京交響楽団の会員になり、5~6年前かな、N響の会員になり楽しんでます。専ら今は聴くだけです。今吹いてもうん、とか、すーというだけです。(笑)

会：絵画は、いかがですか。

丸：絵画は、早稲田の大西先生がラグビー部の監督で、オールブラックスに勝った伝説の監督で、その方が心臓を患っていたので、11年間自宅に週何回もお伺いし治療をしていましたがラグビーの話聞くのを楽しみにしていました。その奥様が現在は、90歳ですが、絵画の鑑賞に連れて行っていただきました。見る目はそれなりにあるつもりですが。

会：映画は、いかがですか。

丸：映画は好きで上映のラストの観客が少ない時によく行きました。直近の職場が、高田馬場だったので新宿のシネマコンプレックスやピカデリーによく行きました。映画は、ジャンルを問わず観てました。最近、映画館に足を運ぶ時間も無くなりました。

会：今まで文化芸術関係で印象に残ったものは。

丸：12月31日に小林研一郎がタクトを振った、ベートーベンの一番から九番まで演奏するのを聴きに行きましたが、九番の時間帯が選挙運動中で田無神社、総持寺に行っておりましたので聴けませんでした。今年は、なんとかチケットを購入しようかと思っています。

会：今まではラグビーオンリーかと思っていましたが(笑)いろいろな分野に興味を持たれているので感心いたしました。

丸：「西東京音楽祭」は今年で5回目くらいですか。市民参加の音楽祭としては、大変意義深いものですね。

会：就任されて市民のスポーツ・文化活動に参加されたことはありますか。

丸：多摩六都のマーチングバンドを聴きました。それと、先ほど触れました、佐藤議員が関係している「西東京音楽祭」を聴きました。最近「西東京交響楽団」を聴きました。

(2面へ続く)



丸山市長